

様式 24-1

砂置換法による土の密度試験(較正)  
(JIS A 1214)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の較正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 $m_2$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 $t$ °C					
$t$ °Cにおける水1g当たりの体積 $K$ /g	V				
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$					
平均値 $V_1$					

II. 試験用砂の乾燥密度の較正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 $m_3$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/					
平均値 $\rho_{ds}$ g/					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の較正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 $m_3$ g					
漏斗を満たした砂を除き測定器に残った砂の質量 $m_5$ g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3 - m_5$ g					
平均値 $m_6$ g					

特記事項

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 24-2

砂置換法による土の密度試験(測定)  
(JIS A 1214)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

測 定 器 NO.		土 質 名 称	
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds}$	g/	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_{5g}$	
試験孔 NO.			
最大粒径	mm		
容器 NO.			
容器質量	g		
(試験孔から取り出した土 + 容器)質量	g		
試験孔から取り出した湿潤土の質量 $m_1$	g		
試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0=100m_1/(w+100)$	g		
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした質量 $m_3$	g		
測定器と残った砂の質量 $m_8$	g		
試験孔および漏斗に入った砂の質量 $m_9=m_3-m_8$	g		
試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10}=m_9-m_8$	g		
試験孔の体積 $V_0=m_{10}/\rho_{ds}$	V		
湿潤密度 $\rho_t=m_1/V_0$	g/		
乾燥密度 $\rho_d=m_0/V_0$	g/		
合	容器 NO.		
	(試料 + 容器)質量 $m_a$	g	
	(炉乾燥試料 + 容器)質量 $m_b$	g	
	容器質量 $m_c$	g	
水	w	%	
	容器 NO.		
	(試料 + 容器)質量 $m_a$	g	
	(炉乾燥試料 + 容器)質量 $m_b$	g	
比	容器質量 $m_c$	g	
	w	%	
平均値	平均値 w	%	
	含水比 w	%	
	湿潤密度 $\rho_t$	g/	
	乾燥密度 $\rho_d$	g/	

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 25

土の収縮定数試験  
(JIS A 1209、JGS 0145)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)					
測定 NO.					
収縮皿 NO.					
湿潤試料の 体積	ガラス板の質量 $m_g$ g				
	収縮皿の質量 $m_c$ g				
	水の入った収縮皿と ガラス板の質量 $m$ g				
	水の温度 $T$ °C				
	水の密度 $\rho_w$ g/				
	湿潤試料の体積 $V$	$V$			
炉乾燥試料の 体積	パラフィン塗布後 の試料の質量 $m_1$ g				
	水中における吊り皿 の見掛けの質量 $m_2$ g				
	水中における試料および 吊り皿の見掛け質量 $m_3$ g				
	炉乾燥試料の質量 $m_s$ g				
	パラフィンの密度 $\rho_p$ g/				
	炉乾燥試料の体積 $V_0$	$V$			
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 $m_s$ g				
	湿潤試料の含水比 $w$ %				
	平均値 $w$ %				
収縮 限界	収縮限界 $w_s$ %				
	平均値 $w_s$ %				
収縮比	収縮比 $R$				
	平均値 $R$				
ある含水比 $w_1$ %					
体積収縮率 $C$ %					
線収縮 $L_s$ %					

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_0)\rho_w}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_0 \cdot \rho_w}$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

$$V_0 = \frac{(m_1 - m_2 + m_3)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_2)}{\rho_p}$$

$$w = \frac{(m_s - m_c - m_g)}{m_s} \times 100$$

$$L_s = \left[ 1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C + 100}} \right] \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 26-1

CBR試験（初期状態、吸水膨張試験）  
 (JIS A 1211、JGS 0721)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

試験採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	練固めた土、乱さない土	ランマー質量 kg	土質名称
突き固め方法		落下高さ cm	自然含水比 $w$ %
試験準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数/層	最適含水比 $w_{opt}$ %
試料準備	空気乾燥前含水比 %	突固め層数	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$ g/
	試料調整後含水比 $w_s$ %	モールド内径 cm	荷重板質量 kg
		モールド高さ <sup>1)</sup> cm	モールド容量 V V

供試体 NO.							
含 水 比	容器 NO.						
	(試料+容器)質量 $m_s$ g						
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g						
	容器質量 $m_c$ g						
	含水比 $w_1$ %						
平均値 $w_1$ %							
密 度	(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup> g						
	モールド質量 $m_1$ <sup>2)</sup> g						
	湿潤密度 $\rho_t$ g/						
	乾燥密度 $\rho_d$ g/						
吸 水 膨 張 試 験	水浸時間 h 時刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0						
	1						
	2						
	4						
	8						
	24						
	48						
	72						
	96						
	(試料+モールド)質量 $m_3$ <sup>2)</sup> g						
	膨張比 $\gamma_e$ %						
	湿潤密度 $\rho_t$ g/						
	乾燥密度 $\rho_d$ g/						
	平均含水比 $w$ %						

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量(mm)}}{\text{供試体の最初の高さ(125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{\sqrt{1 + \gamma_e / 100}} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e / 100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1 / 100}$$

$$w' = \left[ \frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 26-2

**C B R 試 験 ( 貫 入 試 験 )**  
(JIS A 1211、JGS 0721)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試 験 日 平 成 年 月 日 請 負 会 社 名 \_\_\_\_\_

試 料 採 取 地 点 \_\_\_\_\_ 採 取 日 平 成 年 月 日 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 条 件		水浸、非水浸	貫入速さ mm/min		荷重板質量 kg			
養 生 条 件		日 空 気 中	荷 重 計 NO.		貫入スピンドルの断面積			
		日 水 浸	容 量 kN		較 正 係 数 <small>MN/m<sup>2</sup>/目盛 kN/目盛</small>			
供 試 体 NO.			供 試 体 NO.		供 試 体 NO.			
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重	貫 入 量 mm	荷重強さ、荷重	貫 入 量 mm	荷重強さ、荷重		
読み		平均	荷重計の読み	MN/m <sup>2</sup>	読み	平均	荷重計の読み	MN/m <sup>2</sup>
1	2		1	2	1	2		
0			0		0			
0.5			0.5		0.5			
1.0			1.0		1.0			
1.5			1.5		1.5			
2.0			2.0		2.0			
2.5			2.5		2.5			
3.0			3.0		3.0			
4.0			4.0		4.0			
5.0			5.0		5.0			
7.5			7.5		7.5			
10.0			10.0		10.0			
12.5			12.5		12.5			
貫入試験後の含水比	容器NO.		貫入試験後の含水比	容器NO.		貫入試験後の含水比	容器NO.	
	m <sub>a</sub> g			m <sub>a</sub> g			m <sub>a</sub> g	
	m <sub>b</sub> g			m <sub>b</sub> g			m <sub>b</sub> g	
	m <sub>c</sub> g			m <sub>c</sub> g			m <sub>c</sub> g	
	w <sub>2</sub> %			w <sub>2</sub> %			w <sub>2</sub> %	
	平均値 w <sub>2</sub> %			平均値 w <sub>2</sub> %			平均値 w <sub>2</sub> %	

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m<sub>a</sub> : (試料+容器)質量

m<sub>b</sub> : (炉乾燥試料+容器)質量

m<sub>c</sub> : 容器質量

[1MN/m<sup>2</sup>≒10.2kgf/]

[1kN≒102kgf]

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 26-3

CBR試験(室内試験結果)  
(JIS A 1211、JGS 0721)

主 監 督	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称	
突固め方法		落下高さ	cm	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	自然含水比 w	%
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層	最適含水比 $w_{opt}$	%
養生条件	日空气中	モールド 高さ <sup>1)</sup>	内径	最大乾燥密度 $\rho_{max}$	g/V
	日水浸		cm		

供試体 NO.				
吸水膨張試験	前	含水比 w	%	
		乾燥密度 $\rho_d$	g/	
	後	膨張比 $\gamma_e$	%	
		平均含水比 $w'$	%	
貫入試験		乾燥密度 $\rho'_d$	g/	
		試験後の含水比 $w_2$	%	
		貫入量2.5mmにおけるCBR	%	
		貫入量5.0mmにおけるCBR	%	
	CBR	%		

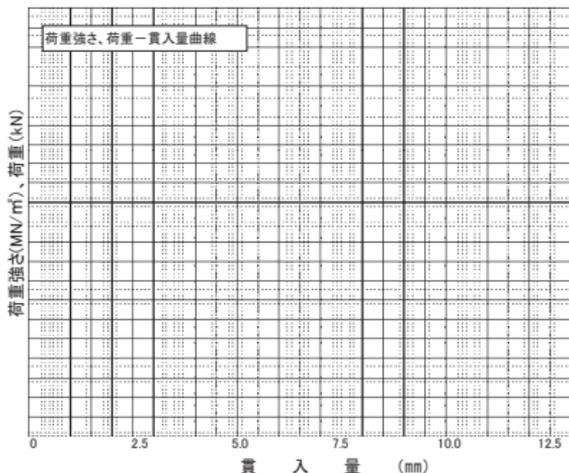
平均CBR %

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m<sup>2</sup>≒10.2kgf/]  
[1kN≒102gf]

貫入量mm	2.5	5.0
荷 重 強 さ 重 NO.	供試体	
	供試体	
	供試体	
	供試体	
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9



(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 27

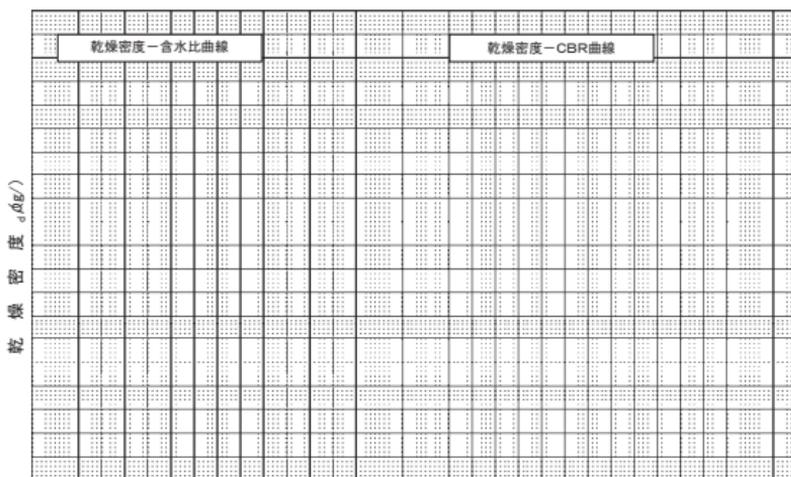
修正 C B R 試験

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

突 固 め 回 数	回/層	( 層 )	( 層 )	( 層 )
供 試 体 N O .				
乾 燥 密 度 $\rho_d$ g/				
平 均 値 $\rho_d$ g/				
貫入量2.5mmにおけるCBR %				
平 均 値 %				
貫入量5.0mmにおけるCBR %				
平 均 値 %				
ランマー質量 kg		最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$ g/V		締固め度 %
		最適含水比 $w_{opt}$ %		修正CBR %



含 水 比  $w(\%)$

C B R (%)

特記事項 \_\_\_\_\_

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 28

現場 C B R 試験  
(JIS A 1222)

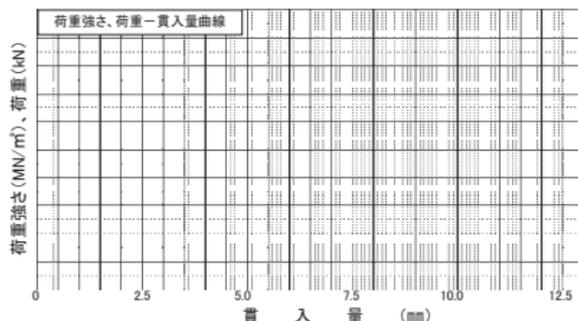
主 監 督 員	任 監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貫入スピンドル直径 cm	貫入スピンドル面積 $m^2$	貫入速度 mm/min
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類
荷重計容量 kN	荷重計の MN/m <sup>2</sup> 目盛 校正係数 MN/目盛	天 候

測 点 NO.				測 点 NO.					
貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷 重 計 の 読 み	荷重強さ、 荷重 MN/m <sup>2</sup> kN	貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷 重 計 の 読 み	荷重強さ、 荷重 MN/m <sup>2</sup> kN
1	2				1	2			
0.0					0.0				
0.5					0.5				
1.0					1.0				
1.5					1.5				
2.0					2.0				
2.5					2.5				
3.0					3.0				
4.0					4.0				
5.0					5.0				
7.5					7.5				
10.0					10.0				
12.5					12.5				
貫入量2.5mmにおけるCBR %				貫入量2.5mmにおけるCBR %					
貫入量5.0mmにおけるCBR %				貫入量5.0mmにおけるCBR %					
CBR %				CBR %					
試験箇所の含水比 w %				試験箇所の含水比 w %					



貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ 測定点 番号		
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項 \_\_\_\_\_

[1kN=102kgf]  
[1MN/m<sup>2</sup>=10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)







様式 32

締固めた土のコーン指数試験  
(JIS A 1228、JGS 0716)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称	モ ル ド	NO.	荷 重 計	NO.				
土粒子の密度 $\rho_s$ g/		容 量 V V	1000	容 量 N				
コーンの底面積 A $m^2$	3.24	(モールド+底板)質量 $m_g$ g		校正係数 K N/目盛				
突 固 め 回 数 回/層		10	25	55	90			
含 水 比	容 器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$ g							
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g							
	容 器 質 量 $m_c$ g							
	w %							
平均値 w %								
供 試 体	(供試体+モールド+底板)質量 $m_g$ g							
	湿 潤 密 度 $\rho_t$ g/							
	乾 燥 密 度 $\rho_d$ g/							
	飽 和 度 $S_r$ %							
空 気 間 隙 率 $u_a$ %								
コ ン 指 数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm						
		7.5 cm						
		10 cm						
	平均貫入抵抗力 $Q_c$	N						
コーン指数 $q_c$	kN/m <sup>2</sup>							

データ 入力	$q_c$ (kN/m <sup>2</sup> )	0	10	25	55	90
		突固め回数	(回/層)			

特記事項

1) 突固め回数<sup>6</sup>1種類の場合は記入の必要はない

水の密度  $\rho_w$  g/

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_c = \frac{m_2 \cdot m_1}{V}$$

$$\rho_s = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_s - \rho_w / \rho_s}$$

$$u_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_s}{\rho_w} \left[ \frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN  $\approx$  102kgf]

[1kN/m<sup>2</sup>  $\approx$  0.0102kgf/]

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)



様式 33-2

土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)  
(JIS A 1216、JGS 0511)

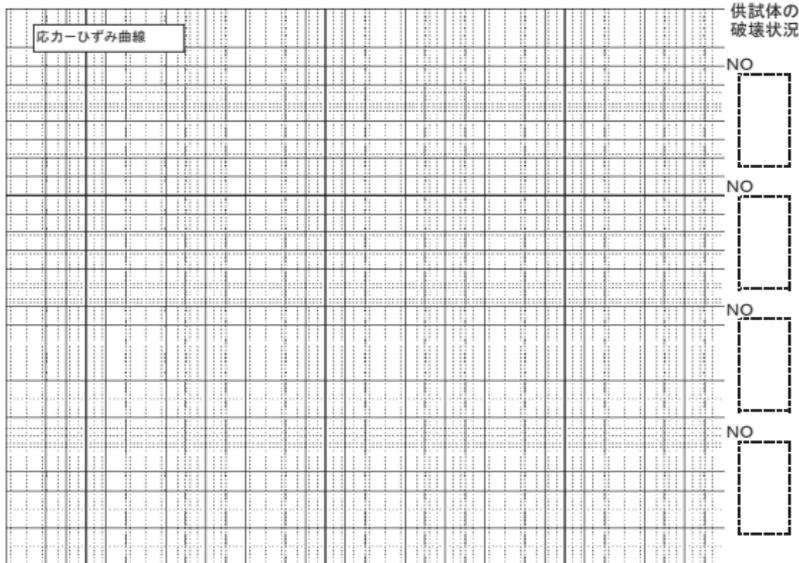
主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{(1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{(1)}$ %		高さ $H_0$ cm			
ひずみ速度 %/min		直径 $D_0$ cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。		質量 m			
		湿润密度 $\rho_t^{(1)}$ g/			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>			
		破壊ひずみ $\varepsilon_f$ %			
		変形係数 $E_{50}^{(1)}$ MN/m <sup>2</sup>			
		鋭敏比 $S_t^{(1)}$			

$$E_{50} = \frac{q_u}{\frac{\varepsilon}{2}} / 10$$



圧縮ひずみ  $\varepsilon$ (%)

[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/T]

[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/T]

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 34-1

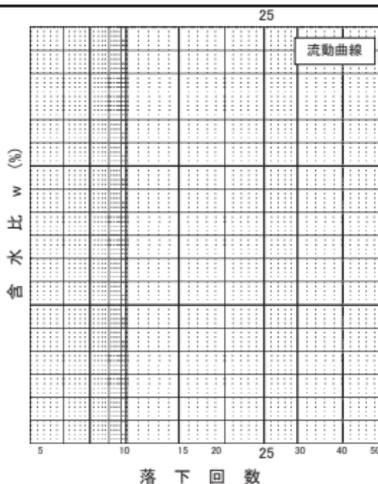
土の液性限界・塑性限界試験(測定)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

主 監 督 員	任 務 員	監 督 員	主 任 技 術 者

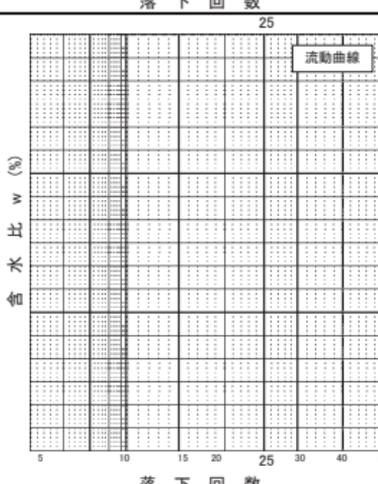
工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
落下回数			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
塑性限界試験			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_p$ %	塑性指数 $I_p$	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
落下回数			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
塑性限界試験			
容器 NO.			
含水比	$m_a$	g	
	$m_b$	g	
	$m_c$	g	
	w	%	
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_p$ %	塑性指数 $I_p$	



特記事項 \_\_\_\_\_  $I_p = W_L - W_p$   $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 34-2

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

主 監 督 員	任 務 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

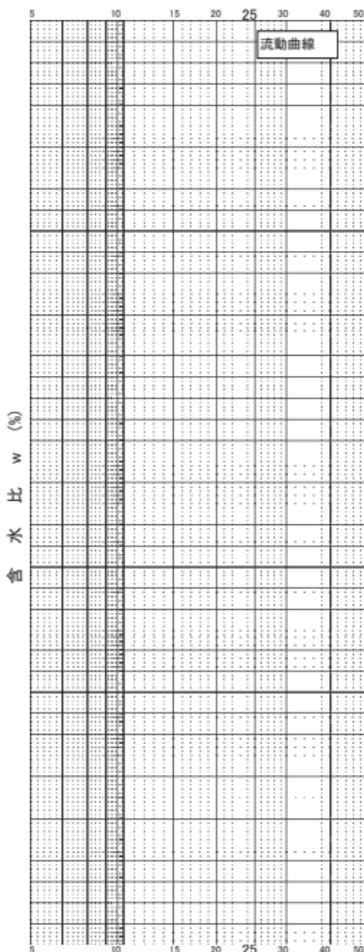
液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

特記事項

落下回数



(土質関係)

(社)地盤工学会規格準用

様式 35

土粒子の密度試験（検定、測定）  
(JIS A 1202、JGS 0111)

主 監 督 員	任 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号（深さ）					
ピクノメーター NO.					
ピクノメーターの質量 $m_f$		g			
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$		g			
$m_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T$		°C			
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$		g/			
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$		g			
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$		°C			
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$		g/			
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_s$		g			
試料の 炉乾燥質量	容 器 NO.				
	(炉乾燥試料+容器)質量	g			
	容 器 質 量	g			
		$m_s$	g		
土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$		g/			
平 均 値 $\rho_s$		g/			

試料番号（深さ）					
ピクノメーター NO.					
ピクノメーターの質量 $m_f$		g			
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$		g			
$m_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T$		°C			
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$		g/			
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$		g			
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$		°C			
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$		g/			
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_s$		g			
試料の 炉乾燥質量	容 器 NO.				
	(炉乾燥試料+容器)質量	g			
	容 器 質 量	g			
		$m_s$	g		
土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$		g/			
平 均 値 $\rho_s$		g/			

特記事項

$$m_b = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T)} \times (m'a - mf) + mf$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 36-1

土の粒度試験（ふるい分析）  
(JIS A 1204、JGS 0131)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)							
含 水 比	容器 NO.			含 水 比	容器 NO.						
	$m_a$	g			$m_a$	g					
	$m_b$	g			$m_b$	g					
	$m_c$	g			$m_c$	g					
	w	%			w <sub>1</sub>	%					
平均値w			%	平均値w <sub>1</sub>			%				
(全試料+容器)質量				g	(2mmふるい通過試料+容器)質量				g		
容器(N.O.)質量				g	容器(N.O.)質量				g		
全試料質量				m	g	2mmふるい通過試料の質量				$m_1$	g
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$				g	2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{s1} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$				g		
2mmふるい残留分の水洗い後の試料		(試料+容器)質量	g	全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比		$\frac{m_s - m_{s1}}{m_s}$					
		容器(N.O.)質量	g								
		炉乾燥質量	$m_{0s}$	g							

2mmふるい残留分 $m_{0s}$ のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	m(d)	$\sum m(d)$	$\frac{\sum m(d)}{m_s} \times 100$	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_s}) \times 100$
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 $m_{15}$ のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
$\mu m$		g	g	m(d)	$\sum m(d)$	$\frac{\sum m(d)}{m_{15}} \times 100$	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_{15}}) \times 100$	$\frac{m_s - m_{0s}}{m_s} \times P$
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項  $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  $m_c$  : 容器質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 36-2

**土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)**  
(JIS A 1204, JGS 0131)

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

2mmふるい通過試料				土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$ g/
含 水 比	容器 NO.			塑 性 指 数 $I_p$
	$m_a$ g			分散装置の容器NO.
	$m_b$ g			メスシリンダーNO.
	$m_c$ g			浮 び よ う NO.
	$w_i$ %			メニスカス補正値 $C_m$
平均値 $w_i$ %				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量
(沈降分析用試料+容器)質量 g				
容器 (NO. ) 質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の
沈降分析用試料質量 $m_1$ g				比 $\frac{m_b - m_{0s}}{m_b}$
沈降分析用試料の 炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_i/100}$ g				$M = \frac{V}{m_{1s}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひよりの読み	測定時 の水溫	有効深さ		粒徑d	補正係数	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
	t	小数部分	T °C	L	$\frac{30\pi}{d(1-r)} \times \sqrt{\frac{h}{t}}$	mm	F	$M \times ((3)+F)$	$\frac{m_b - m_{1s}}{m_b} \times P$
	min	r						%	%
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+ 容器)質量	容器 質量	残留試料 質量	加積残留 試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分 率P(d)
$\mu m$		g	g	m(d)	$\Sigma m(d)$	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_b - m_{1s}}{m_b} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

懸濁液の体積V=1000  
 $T^\circ C$ に対する水の密度  $\rho_w$  g/cm3  
 $T^\circ C$ に対する水の粘性係数  $\eta$   $\rho_w$   
 $w = [(m_b - m_c) / (m_b - m_c)] \times 100$   
 $m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 36-3

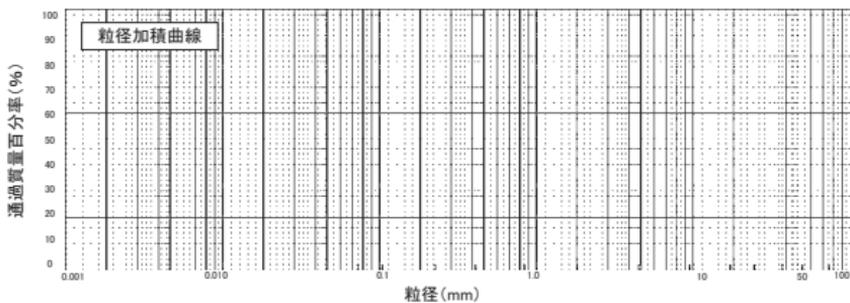
土の粒度試験（粒度加積曲線）  
 (JIS A 1204、JGS 0131)

主 監 督 員	任 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)		
ふるい分析	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗 礫 分	%	
	75		75		中 礫 分	%	
	53		53		細 礫 分	%	
	37.5		37.5		粗 砂 分	%	
	26.5		26.5		中 砂 分	%	
	19		19		細 砂 分	%	
	9.5		9.5		シルト分	%	
	4.75		4.75		粘 土 分	%	
	2		2		2mmより通過質量百分率	%	
	0.850		0.850		425 $\mu$ mより通過質量百分率	%	
	0.425		0.425		75 $\mu$ mより通過質量百分率	%	
	0.250		0.250		最大粒径	mm	
	0.106		0.106		60% 粒径 $D_{60}$	mm	
	0.075		0.075		50% 粒径 $D_{50}$	mm	
沈降分析					30% 粒径 $D_{30}$	mm	
					10% 粒径 $D_{10}$	mm	
					均等係数 $U_c$		
					曲率係数 $U_c$		
					土粒子の密度 $\rho_s$ g/		
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量		



特記事項 \_\_\_\_\_

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 37-1

突固めによる土の締固め試験(測定)  
(JIS A 1210, JGS 0711)

主 監 督 員	任 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 方 法		土質名称	
試 料 の 準 備 方 法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量	kg
試 料 の 使 用 方 法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ	cm
含 水 比	試料分取後 $w_0$ %	突固め回数	回/層
	乾燥処理後 $w_1$ %	突固め層数	層

測 定 NO.	1	2	3	4
(試料+モールド)質量 $m_2^{(2)}$	g			
湿 潤 密 度 $\rho_t$	g/			
平 均 含 水 比 $w$	%			
乾 燥 密 度 $\rho_d$	g/			

含 水 比	容 器 NO.			
	(試料+容器)質量 $m_a$	g		
水	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g		
	容 器 質 量 $m_c$	g		
比	$w$	%		
	容 器 NO.			
水	(試料+容器)質量 $m_a$	g		
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g		
比	容 器 質 量 $m_c$	g		
	$w$	%		

測 定 NO.	5	6	7	8
(試料+モールド)質量 $m_2^{(2)}$	g			
湿 潤 密 度 $\rho_t$	g/			
平 均 含 水 比 $w$	%			
乾 燥 密 度 $\rho_d$	g/	V		

含 水 比	容 器 NO.			
	(試料+容器)質量 $m_a$	g		
水	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g		
	容 器 質 量 $m_c$	g		
比	$w$	%		
	容 器 NO.			
水	(試料+容器)質量 $m_a$	g		
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g		
比	容 器 質 量 $m_c$	g		
	$w$	%		

特記事項

1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。  
2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

様式 37-2

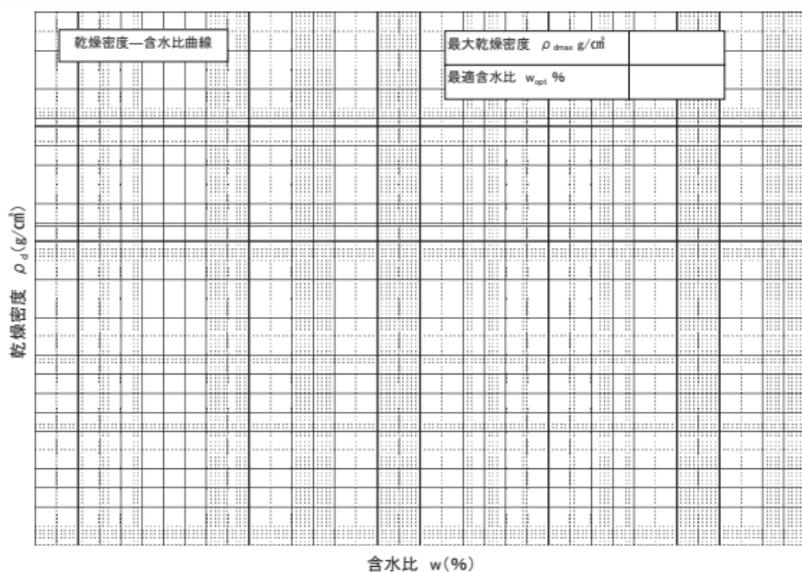
突固めによる土の締固め試験(締固め特性)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

主 監 督 員	任 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	土質名称							
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量 kg				土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ cm				試料調製前の最大粒径mm		
含水比	試料分取後 $w_0$ %	突固め回数 回/層				モールド	内径 cm	
	乾燥処理後 $w_1$ %	突固め層数 層					高さ <sup>1)</sup> cm	
測定 NO.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 $w$ %								
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>								



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスパーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w / \rho_s + w / 100}$$

(社)地盤工学会規格準用

(土質関係)

(アスファルト関係)

様式 38

## アスファルト試験成績一覧表

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

分 類			
用 途			
製 造 会 社			
密 度 (25°C/25°C)	規 格	規 格	規 格
軟 化 点 °C	規 格	規 格	規 格
針 入 度 (0°C. 200g. 60秒)	※		
	(25. 100. 5)	規 格	規 格
	(46. 50. 5)	※	
伸 度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規 格	規 格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄 膜 加 熱 重 量 変 化 %	規 格	規 格	規 格
薄 膜 加 熱 後 の 針 入 度 %	規 格	規 格	規 格
蒸 発 後 の 針 入 度 比 %	規 格	規 格	規 格
三 塩 化 エ タ ン 可 溶 分 %	規 格	規 格	規 格
引 火 点 °C	規 格	規 格	規 格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。  
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 \_\_\_\_\_

(アスファルト関係)

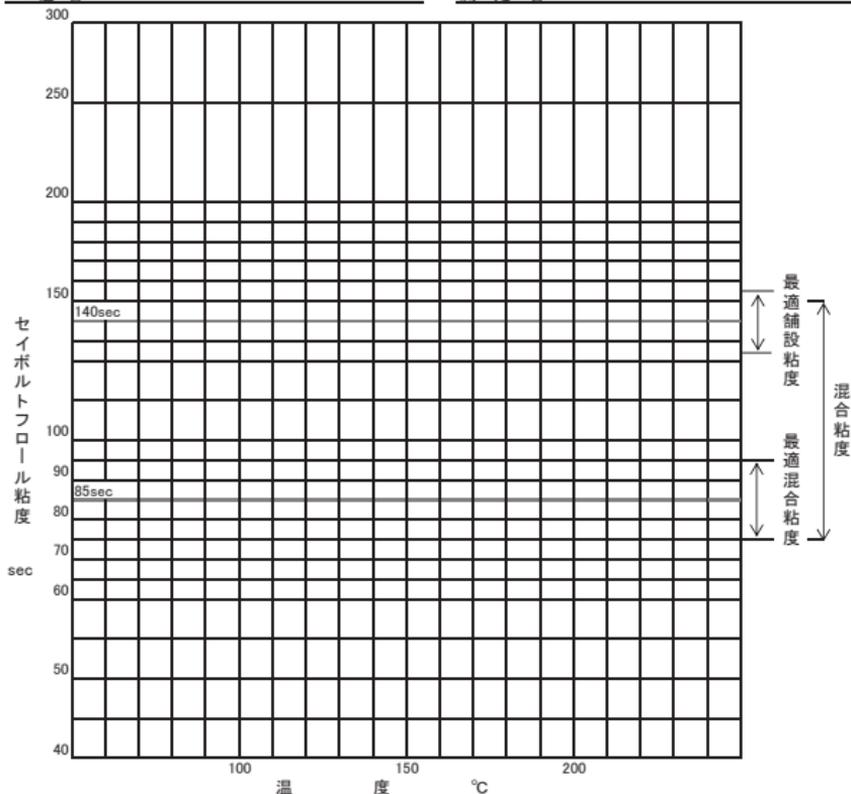
様式 39

アスファルトの粘度温度表

主 監 督	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_



	記 号	種 類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

(アスファルト関係)

様式 40

粗骨材試験成績一覧表(碎石)

主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

種	類				
用	途				
産	地				
生	産 会 社				
原	石 種 類				
粒 度 ( 通 過 量 %)	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密	度				
単	位 体 積 質 量 ( 標 準 ) kg/m <sup>3</sup>				
"	( 軽 装 ) kg/m <sup>3</sup>				
安	定 性 %				
吸	水 率 %				
す	り へ り 減 量 %				
洗	い 試 験 で 失 わ れ る 量 %				
軟	石 量 %				
細	長、扁 平 ( 質 量 ) %				
"	( 箇 数 ) %				
総	試 料 質 量 kg				
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試	験 年 月 日				
試	験 機 関 名				

(アスファルト関係)

様式 41

細骨材試験成績一覧表(砂)

主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

種	類				
用	途				
産	地 河 川 名				
"	市 郡 町 村				
生	産 会 社				
粒 度 ( 通 過 量 %)	4.75	mm			
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単	位 体 積 質 量 ( 標 準 ) kg/m <sup>3</sup>				
"	( 軽 装 ) kg/m <sup>3</sup>				
安	定 性 %				
吸	水 率 %				
洗	い 試 験 で 失 わ れ る 量 %				
粒	形 判 定 実 績 率				
総	試 料 質 量 kg				
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試	験 年 月 日				
試	験 機 関 名				
備 考					

(アスファルト関係)

様式 42

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

種	類				
用	途				
産	地				
生	産 会 社				
原 石 の 種 類					
粒 度 ( 通 過 量 %)	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密 度					
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安 定 性 ① %					
吸 水 率 ② %					
す り へ り 減 量 ③ %					
0.075 通 過 分 の P . I . ④					
加 熱 変 質 200 °C ⑤					
フ ロ ー 試 験 ⑥ %					
浸 水 膨 張 ⑦ %					
は く 離 試 験 ⑧ %					
総 試 料 質 量 kg					
試 験 年 月 日					
<p>注 ①～③はスクリーニングスのみとする。</p> <p>④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。</p> <p>⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比</p>					

(アスファルト関係)

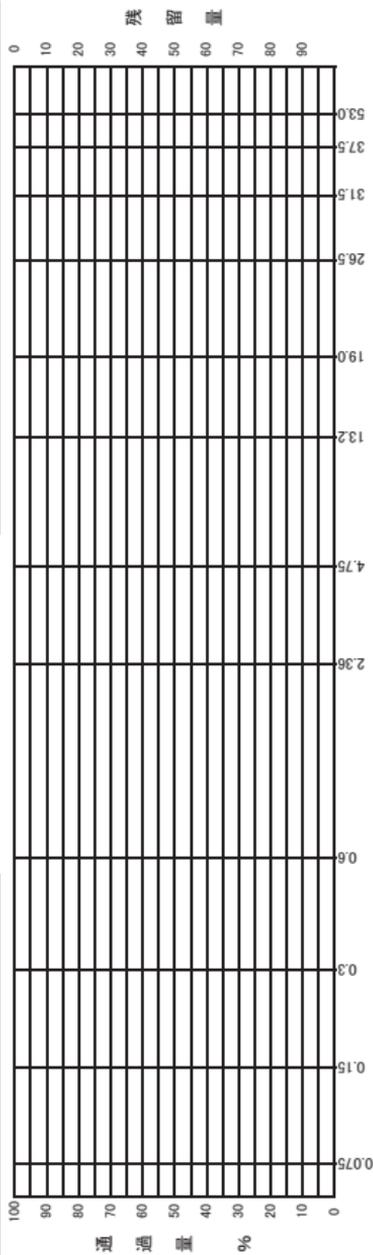
様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

主任 監督員	主任 監督員	主任 技術者
-----------	-----------	-----------

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_  
 工 種 名 \_\_\_\_\_



①	④	⑦
②	⑤	⑧
③	⑥	例 種類、産、用途



様式 45

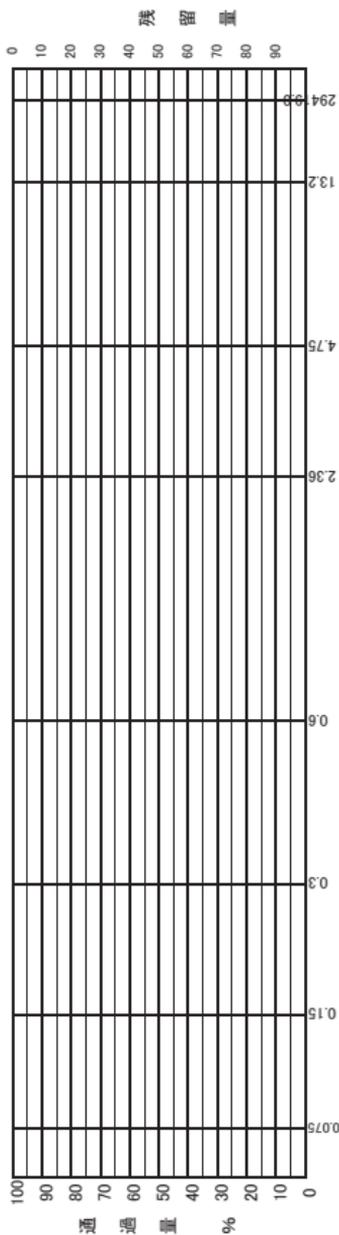
骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

主任 監督員	主任 監督員	主任 技術者
-----------	-----------	-----------

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_



粒径 mm

①	③	配合設計に 用いた値 範囲
②	④	

様式 46

骨 材 配 合 率 の 密 度 補 正

主 監 督 員	任 務 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印

(記号) (合材種別)  
( )

骨 材 種 類							計
配 合 率 a							100
密 度 b							-
a × b							(c)
補 正 配 合 率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$							100

(アスファルト関係)

様式 47

骨材配合率及びひ合成粒度(室内試験)

主任 監督員	主任 監督員	主任 技術者
-----------	-----------	-----------

試験日 平成 年 月 日

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 印  
 工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_

骨材種類 配合率 (比重補正)	原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		合 成 度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率				
通過量																		
53 mm																		
37.5																		
31.5																		
26.5																		
19																		
13.2																		
4.75																		
2.36																		
0.6																		
0.3																		
0.15																		
0.075																		

様式 48

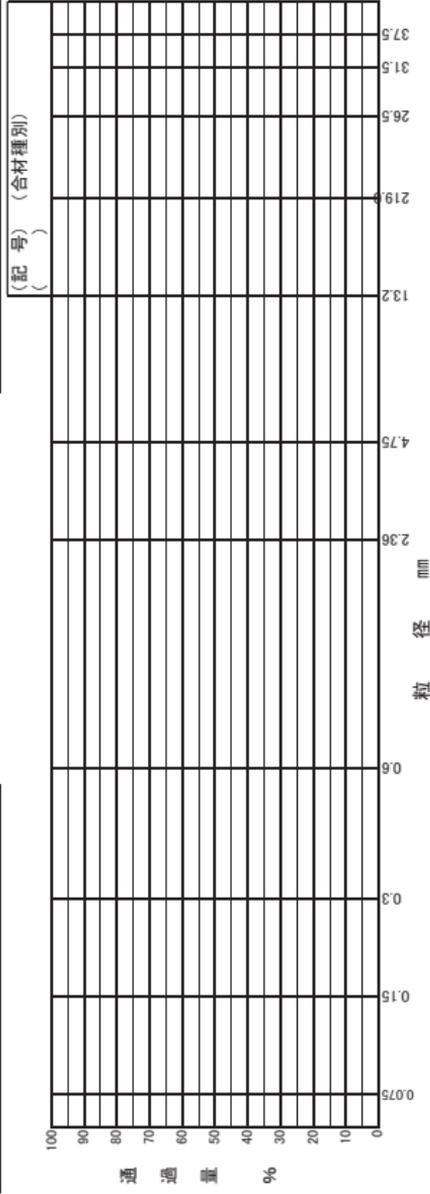
合成粒度曲線(室内試験)

主任監督員	主任監督員	主任技術者

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_

請負会社名 \_\_\_\_\_  
測定者 \_\_\_\_\_ 印



合成粒度
指定範囲

(アスファルト関係)

様式 49

試験配合表(アスファルト量別)

主任 監督員	主任 監督員	主任 技術者
-----------	-----------	-----------

試験日 平成 年 月 日

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 印  
 工 種 名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%		細骨材%		石 粉 %	合 計 %	摘 要
A								
B								
C								
D								
E								
F								

(アスファルト針入度 )

記 号  
合 ( )  
材 種 別

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

様式 50-1

アスファルト混合物の安定度試験  
(マーシャル式・理論最大密度)

主 監 督	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候		
試 験 日 の 状 態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)
混 合 物 の 種 類			

理論最大密度の計算

骨材の種類	産地名	① 配合比 (%)	② 各骨材の比重	③ 係数 $\frac{①}{②}$

係数の和=④=

乾燥骨材の比重=  $\frac{100}{④}$  =

⑤ アスファルト 混合率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理論最大密度 $\frac{100}{⑨}$

考 察

-----

-----

-----

-----

-----

-----

(アスファルト関係)



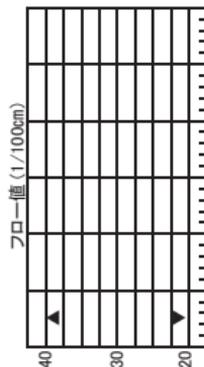
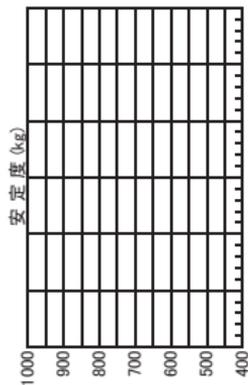
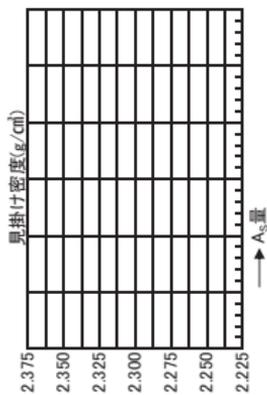
試験結果図表

主任監督員	主任技術者
監督員	

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 印

工事種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)



注): 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているので、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。

(アスファルト関係)

マーシャル試験による基準アスファルト量

主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)  
( )

安 定 度									
フ ロ ー 値									
空 隙 率									
飽 和 度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許 容 範 圍									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
“ 最小値 ②	%
A= [ $\frac{①+②}{2}$ ]	%

注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。  
なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

様式 53

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

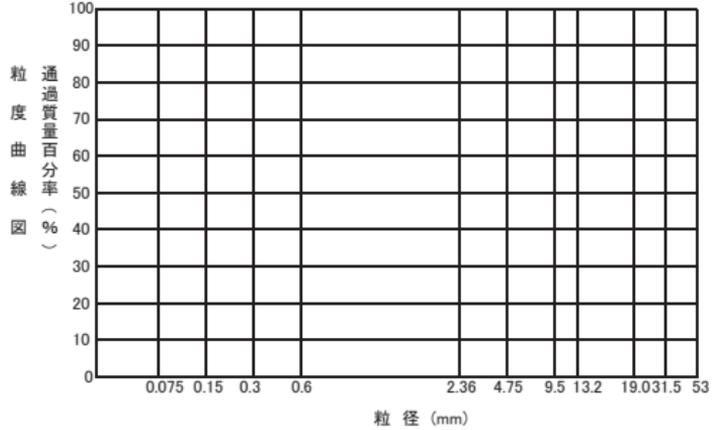
主 監 督	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	午前 _____ 時 _____ 分
_____	午後 _____ 時 _____ 分
骨材の産地又は製造会社名 _____	

骨材の種類 (配合率)	通過ふるい										合成 粒度		
	53	37.5	31.5	19.0	13.2	9.5	4.75	2.36	0.6	0.3			
各フルイ目の通過質量百分率及び配合率 %	0.15	0.075	31.5	19.0	13.2	9.5	4.75	2.36	0.6	0.3	0.15	0.075	



(アスファルト関係)



アスファルトの抽出試験

主 監 督 員	任 監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_  
 工 種 名 \_\_\_\_\_ 舗 装 箇 所 \_\_\_\_\_  
 試 料 番 号 \_\_\_\_\_ 請 負 会 社 名 \_\_\_\_\_  
 試 験 日 平 成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

アスファルト抽出試験結果 (焼却法)				(加圧濾過法)			
試 験		採 取 時		試 験		採 取 時	
抽出前の試料の質量 g	①			抽出液全容積 cc	⑦	加圧前の口紙の質量 g	⑦
抽出前の口紙の質量 g	②			焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧	加圧後の残留物質量 g	⑧
抽出骨材質量 g	③			焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨	加圧後の口紙の質量 g	⑨
抽出後の口紙の質量 g	④			右粉の質量 g	⑩	口紙付着右粉質量 g	⑩
口紙付着右粉の質量 g	⑤	④-②		抽出液中の右粉の質量 g	⑪	抽出液中の右粉質量 g	⑪
抽出全骨材質量 g	⑥	③+⑤		⑩=⑨-⑧ ⑪=⑩× $\frac{⑦}{100}$		⑩=⑨-⑦ ⑪=⑧+⑩	
全骨材質量 g	⑫	⑥+⑪		抽出残留物(骨材)の粒度分布 			
アスファルト量 g	⑬	①-⑫					
アスファルト混合率 %	⑭	$\frac{⑬}{①}$					
備考							

抽出残留物のふるい分け結果

採取時 試 験	各ふるい残		累加残留		各ふるい残		累加残留	
ふるい目 (mm)	留質量 g	留百分率%	百分率%	百分率%	留質量 g	留百分率%	百分率%	百分率%
53								
31.5								
19.0								
13.2								
4.75								
2.36								
0.6								
0.3								
0.15								
0.075								
0.075以下								

(アスファルト関係)



様式57

ブルーフローリング試験

主 監 督 員	任 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

項 目	事 項				備 考
天 候		測定面の含水状況			
試験区間	No.	~No.			
載 荷 車	型 式		接 地 圧		
載 荷 状 況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視 察 展 開 図	
視 察 記 事	
異 常 箇 所 の 処 置	

(アスファルト関係)

(品質管理関係)

様式 58-1

X - R 管理データシート

主 監 督 員	任 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
 工 種 名 (名称) \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_  
 項目名(品質特性) \_\_\_\_\_ 作 成 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 小 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 X	範 圍 R		
			X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	X <sub>3</sub>				X	R
		1	·	·	·					
		2	·	·	·					
		3	·	·	·					
		4	·	·	·			平均	X	R
		5	·	·	·			累 計		
		小計						小 計		
		6	·	·	·					
		7	·	·	·					
		8	·	·	·					
		9	·	·	·			平均	X	R
		10	·	·	·			累 計		
		小計						小 計		
		11	·	·	·					
		12	·	·	·					
		13	·	·	·					
		14	·	·	·					
		15	·	·	·					
		16	·	·	·					
		17	·	·	·					
		18	·	·	·					
		19	·	·	·			平均	X	R
		20	·	·	·			累 計		
		小計						小 計		

(注)  
 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。  
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとと同様とする。

記 事

記入要領  
 1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。  
 2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。  
 3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。  
 4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

(品質管理関係)



様式 58-3

X - R 管理図

主任監督員	主任監督員	主任技術者

設計基準値	工 事 名	事業所名	標準量		日 期	年 月 日
			日 標	量		
名稱	日 標	上 限 値	下 限 値	期 間	自	日
品 質 特 性	規格値限界	上 限 値	下 限 値	請 負 会 社	年	日
測定單位	試 料	大 小 寸	間 隔	現 場 代 理 人		
測定方法	試 料	大 小 寸	間 隔	測 定 者		
作業機械名	試 料	大 小 寸	間 隔	測 定 者		

X	[Grid area for X chart data]					
	[Grid area for X chart data]					
R	[Grid area for R chart data]					
	[Grid area for R chart data]					

組 号	
記 事	

注) 1.管理図は、別紙X-R管理用データシートから記入する。  
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

主 監 督 員	任 監 督 員	主 任 技 術 者

名 称	工 事 名		測 定 期 間	自	年 月 日
品 質 ・ 特 性	事 業 所 名		至	年 月 日	
測 定 単 位	日 標 準 量		請 負 会 社 名		
規 格 限 界	上 限 値	試 料 大 小	現 場 代 理 人		
	下 限 値		間 隔	測 定 者	
設 計 基 準 値	作 業 機 械 名		作 成 者		

月 日	試 験 番 号	測 定 値				計 算	平 均 値 $\bar{X}$	移 動 範 圍 $R_s$	測 定 値 内 範 圍 $R_m$	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$		
		a	b	c	d							
	1											
	2											
	3											
	4											
	5											
	小計											
	6											
	7											
	8											
	小計											
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	小計											
	14											
	15											
	16											
	17											
	18											
	19											
	20											
	小計											
記 事									n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>
									2	1.13	3.27	2.66
									3	1.69	2.57	1.77
									4	2.06	2.28	1.46
									5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。  
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。



主任監督員	主任監督員	主任技術者

X - Rs - Rm 管理図

設計基準 名	値	補	性	位	法	機	械	名	工	事		名	業	所	名	日	
										日	日						期
品質	特	性	性	位	法	機	械	名	日	日	期	自	至	年	月	日	
測定	単	位	規	格	値	界	上	限	値	下	限	値	請	負	會	社	名
測定	方	法	試	料	大	き	さ	測	現	場	代	理	人	印	測	定	者
作業	機	械	名	間	隔	試	料	大	き	さ	測	現	場	代	理	人	印
X																	
Rs																	
Rm																	
組の番号																	
記事																	

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理用シートから記入する。  
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式 61

平成 年度

総 監 督	括 入 員	主 監 督	任 務 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事アルバム 冊

事業所

支 所

請負会社名 :

(測点No. ~No. )

測 定 者 : 印

月 日	工 種	記 事

- 注) 1. 標題には施工年度、工事名を記入し、1/3冊、2/3冊 ……と番号をつけ、当冊に収められている測点Noを( )内に記入する。  
 2. 記事欄は撮影補足説明、整理及び保存番号、既済検査記録等主要な説明事項を記入する。  
 3. 本様式は、アルバムの表紙あるいは内紙に設けるものとする。